C.G　　英語英文学科　　３年次

参加期間：2025 年 8 月（　4　週間）

受 入 校：　（ 学校名　 Simonds Catholic college ）（都市名　 Melbourne　　）

Ⅰ．教育実習について

私が担当した学校は、7 年生（中学 1 年生）から 12 年生（高校 3 年生）までの学年が在籍している学校でした。第二言語として日本語を選択している生徒を対象に授業が行われており、一クラスの人数は 3 名から 20 名ほどと、クラスによって大きな差がありました。

7 年生のクラスでは、まだ日本語を学び始めたばかりの生徒が多く、基本的な挨拶や自己紹介の練習を中心に学習していました。12 年生になると簡単な日常会話ができるレベルに達しており、より実践的な会話練習に取り組んでいました。

実習中、私は生徒が取り組んだワークシートの答え合わせを行い、間違えている箇所を個別に説明したり、例文をホワイトボードに書いて補足したりするなど、授業のサポートを行いました。低学年のクラスでは、授業中に先生の話を聞かず友達と話し始めてしまう生徒もおり、授業の進行が難しい場面もありました。その際には、日本で流っている曲を知っている生徒もいたため、歌詞の内容を授業に取り入れ、単語学習への興味につなげる工夫を試みました。

中学年・高学年のクラスでは、日本語学習に対して真剣に取り組む生徒が多く、日本語に関する質問だけでなく、日本の文化についても積極的に質問をしてくれる生徒がたくさんいました。3 週目以降は、私が作成したワークシートを授業中に使用してもらう機会もあり、生徒が実際に取り組む様子を見てやりがいを感じました。

授業中は基本的に担当の先生とは日本語で会話をしていましたが、先生方の第一言語は英語であり、日本語が完璧ではない部分もあったため、その際は私が英語で補足説明を行うこともありました。日本語の先生は 2 名おられ、私は両方の先生のアシスタントとしてそれぞれの授業に参加しました。

今回の留学の主な目的は英語力の向上でもあったため、授業街での先生方との会話ではできる限り英語を使用するように心がけました。その中で、これまで知らなかった語彙や表現を学ぶことができ、日本語教育の経験を積むと同時に、自身の英語力向上にもつながったと感じています。

イベント

学校では、数週間にわたり一部の生徒が練習を重ね、会場で演劇を発表するというイベントが開催されました。担当の先生に誘っていただき、私も会場で生徒たちの演技を見てきました。生徒たちの衣装や演出の完成度が非常に高く、普段授業で日本語を学んでいる姿とはまた違った一面を見ることができ、とても興味深く感じました。

また、授業の最終日には数名の生徒とともにバスケットボールや卓球のトーナメント戦を行い、交流を深めることができました。生徒たちと一緒に過ごした時間を通して、学習の場面とは異なる関わりを持つことができたことは、貴重な経験となりました。

Ⅱ．ホストファミリーについて

当初は 2 週間ずつ、別々のホストファミリーの家庭に滞在する予定でしたが、最初に受け入れてくださったご家庭が私のことを気に入ってくださり、そのまま 4 週間同じ家で過ごすことになりました。

ホストファミリーは共働きの家庭でしたが、日本と異なり午後 4 時過ぎには仕事を終えて帰宅されていたため、平日でも一緒に犬の散歩をしたり、買い物をして帰ったりすることができました。皆さんとても親切で、休日にはスーパーやビーチ、動物園などに連れて行ってくださり、オーストラリアでの生活をより感じることができました。

夕食はいつもホストファザーが作ってくださり、どの料理もとても美味しかったです。私のリクエストを聞いてカンガルー肉やビーフパイ、フィッシュアンドチップスなども作ってくれました。カレーや肉じゃがなど日本の家庭料理に似たメニューが出てくることもありました。食後にはホストマザーが手作りのスイーツを食べながらテレビを見たり、家族みんなでボードゲームをしたりと、楽しい時間を過ごしました。

15 歳と 17 歳の息子さんたちとは普段あまり話す機会は多くありませんでしたが、ときどき一緒にボードゲームをしたり、日本語やアニメの話をしたりしました。二人とも第二言語として日本語を学んでおり、特に 17 歳の息子さんは授業の課題として日本語でスピーチを行う予定があったため、その練習を手伝ったり、日常会話の練習を一緒にしたりしました。

最も印象に残っているのは、家で飼っていたわんちゃんとの時間です。これまで自宅でペットを飼ったことがなかったため、犬がいると聞いたときはとても嬉しく感じました。食事中に私の方を見つめて「ちょうだい」とおねだりしてきたり、庭で一緒にポッサムという動物を探したり、癒しの時間を過ごすことができました。

帰国後、ホストマザーとホストファザーが会議のため日本を訪れた際に、もう一度会える機会がありました。再会できてとてもうれしかったですし、もう一度あの家に戻りたいと思えるほど素敵な家族に出会えたと感じています。

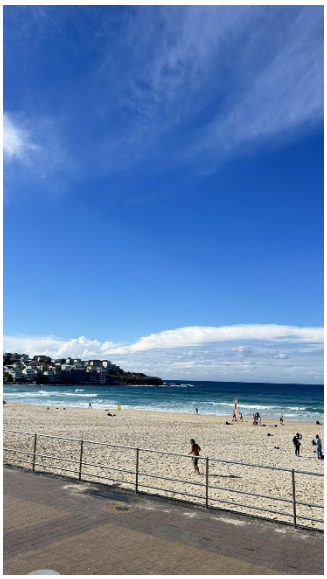
Ⅲ．参加希望者へのアドバイス

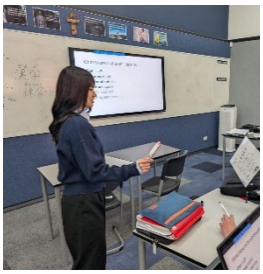
私の学校での立場は、文字通り「日本語教師のアシスタント」であり、自分が授業を主導する機会はほとんどありませんでした。主な役割は、生徒が問題に取り組んでいる際に質問を受けたり、必要に応じてサポートを行ったりすることでした。

実習が始まって 2 週目に入り、先生方とも打ち解けてきた頃に「何か他にお手伝いできることはありますか」と尋ねたところ、生徒が授業中に使用するワークシートの作成を依頼されました。それをきっかけに、授業で使用するスライドの作成など、より多くの業務を任せていただけるようになりました。

振り返ると、もっと早い段階で自分から提案や相談をしていれば、より多くの経験を積むことができたのではないかと感じています。これから参加を希望する方には、指示されたことだけにとどまらず、自分にできることを積極的に探して取り組む姿勢を持つことをお勧めします。

また、土日と授業のなかった金曜日を利用して一人でシドニーに旅行に行ってきました。シドニーの治安は日本の都会と同じような感じで、日本人の観光客もたくさんいたので一人でも生きやすいかなと思います。メルボルンからは一時間半ほどなのでぜひ行ってみてください！





M.H.　英語英文学科　　３年次

参加期間：2025 年 8 月（３週間）

受 入 校：　（ 学校名　Narre Warren South P-12 College ）（都市名 Casey　）

Ⅰ．教育実習について

今回私が日本語教師アシスタントとして実習を行った Narre Warren South P-12 College は、小学校から高校までがすべて同じ場所にあったのですが、小学校（Primary）と中学高校(Secondary)で別れており、隣接しているものの行き来はできないようになっていました。私は Year7 から Year12（中学一年生から高校三年生まで）の日本語の授業のアシスタントを行いました。公立校で幅広い生徒を受け入れている学校だったので日本語の授業に対するモチベーションが低い子も少なからずいるといった印象でした。７年生は「おはようございます」などの基本的な挨拶から、ひらがなの「か」はコップの半分とスプーンの形、「み」は２１歳「who’s 21?」「me」という風な語呂合わせと図で教えていたのが印象的でした。Year12 の生徒は会話のテストがあったのでそれの練習をするために回答の準備の手伝いなどを行っていました。

基本的に PC を持参するように指導されており、授業終了１０分前あたりに PC で確認問題などと行うようになっているのですが、家庭の事情から持参していない生徒もいたのでその子たちが暇にならないようにひらがなを使ったかるたを提案するなど工夫しました。注意力が散漫なクラスではホワイトボード使うといった体を動かす活動を中心にした授業など大変勉強になりました。

授業外の時間ではホストファミリーの先生の授業を見せていただいたり、９年生が行うリスニング問題の練習問題の作成と録音など授業準備を行ったりしていました。日本語の授業を受けている生徒にアンケートを取った際、日本の伝統的なものよりもアニメ・漫画の方が興味をもっているという結果になり、アニメや漫画を使った教材の作成を行いました。

イベント

Book week という本の中に出てくる登場人物の仮装をしてくる日がありました。小学生たちはほとんど仮装していたのですが、中高生は仮装している生徒は少なかったです。他にも Musical Showcase といって小学生から高校生までのオーディションに合格した生徒たちがミュージカル作品の中の曲を披露するというイベントもありました。見に来ているのは主に家族や友人が多かったですが先生たちも多く見に来ていました。小学生から高校生まで年齢の幅が広いのでパフォーマンスの幅の広くて楽しかったです。

Ⅱ．ホストファミリーについて

私は現地の先生のお家にホームステイしていました。家には 3 匹の大型犬と 1 匹のブルドックがいたので犬たちと触れ合いながら今日の学校の様子などを話していました。学校が終わった後に散歩に行く時間がとてもリフレッシュになり楽しかったです。すごく自由にさせてもらえていたので週末にはメルボルンの中心地にワーホリに行っている友人のところに遊びに行ったり AFL を見に行ったり、ミュージカルを見に行ったりと様々なことを経験しました。ホストファミリーとも動物園に行ってコアラと触れ合ったり、ワラビーに餌やりしたりとオーストラリアの固有種をたくさん教えてもらいました。

Ⅲ．参加希望者へのアドバイス

海外経験がないうえに一人で一か月も異国の地に耐えられるのかという不安もあったのですが、今思うともっとポジティブな気持ちで飛び込んでも良かったなと思います。関わる人みんな優しいし、英語が不安でもみんなわかるまできちんと説明してくれるので安心して大丈夫だと思います。私はホストファミリーが「何たべたい？」などいつも聞いてきてくれていたのに具体的な料理がぱっと出てこなかったりしたのでオーストラリアの料理についてたくさん知っておくべきだったかなと思いました。また、学校で子供たちを喜ばせようとお菓子を配ったのですが、私が行った学校ではイスラム教の生徒が多く、豚が食べられないためにハイチュウなどの豚ゼラチンを使ったお菓子が食べられないということがありました。ハラル認証がされてあるお菓子を探して持っていくのもいいかもしれません。